

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2018年7月24日(火) 19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

- 一般講演抄録 1 -

(表題) **ブラキシズムを有する患者へのインプラントを用いたガイドティースの修復処置**

小坪義博 こつぼ歯科医院〒830-1125 久留米市北野町乙丸77-1

■略歴

1. 1975年 福岡歯科大学入学
2. 1981年 福岡歯科大学卒業
3. 1988年 こつぼ歯科開業
4. 2008年 KOTSUBO DENTAL CLINIC 開院
5. 2018年 KOTSUBO DENTAL CLINIC ANNEX 開院

■所属団体

日本臨床歯科医学会 熊本支部
福岡歯科大学咬合修復学口腔インプラント学分野専修生
九州医療専門学校非常勤講師（技工士科&衛生士科）
久留米歯科衛生士専門学校非常勤講師
日本磁気歯科学会会員

■抄録

我々が補綴修復処置を患者に施す場合に、装着後に懸念されるのが補綴物の破損である。特に全顎的な修復処置を行った際には、その治療期間が長ければ長い程、早期の補綴物の破損は患者との信頼関係を損なうケースも出てくる。それを防ぐ為には、力のコントロールが重要な要素を占めている。

特にブラキシズムにおける力のコントロールは、咀嚼や嚥下時の歯の接触に比べ、咬合に関連して顎口腔系に及ぼす影響は重大である。それは、咀嚼や嚥下に比べると上下の歯の接触時間が長く、しかもその時の咬合力は、はるかに大きいからである。咬合学的にも、咬合様式や咬合誘導路、顎路傾斜、調節湾曲などが重要な意味をもっているのは、ブラキシズム機能があるからである。

咬合の基本概念は相互保護（Mutually Protection）の考え方を基本としている。咀嚼器官に強力なブラキシズムによる咬合力が加わった場合、臼歯部に接触があると異常に強い筋活動が誘導され臼歯に側方圧が加わり危険にさらされるため、前歯は側方グライディング運動時に臼歯を離開させ筋活動を減少させる事によって臼歯を保護しなければならない。

今回のケースは左右の犬歯の先天欠如のより、アンテリアガイドが正常に機能しておらず、生体に調和した咬合様式として下顎のグライディング運動時に犬歯が主導的役割を果たす、いわゆる犬歯誘導型の咬合状態ではない。このままでは臼歯部での咬合崩壊が進行すると思われる症例である。機能の回復という視点から、同部位にインプラント埋入を行い、犬歯誘導タイプの補綴物を装着する事で、相互保護（ミューチュアリー・プロテクション）の回復を目指したケースとして提示させていただきます。